

中山道こぼれ話

中山道を歩いていると、いろいろな物語に出会えます。

歩いて、見て、感じて、ちょっといい事がたくさんありました。

『摺針峠に残る 弘法大師にちなむ逸話』

中山道随一の名勝として知られる摺針峠。
地名に関わるお話が残されていました。

ある青年僧は諸国を修行して歩いていましたが、挫折しそうになり、この峠にさしかかったとき、白髪の老婆が石で斧を磨ぐのに出会います。何をしているのかと老婆に聞くと、一本きりの大切な針を折ってしまったので、斧をこうして磨いて針にするといいます。そのとき、青年僧は自分の修行の未熟さを恥じ、修行に励み、後に弘法大師となったと伝えられています。

再びこの峠を訪れた大師は、摺針明神宮に栴餅を供え、杉の若木を植えました。その杉は今も、摺針明神宮の社殿前にあり、太いしめなわがはられています。

杉の真下には「望湖堂」とい名の峠の茶店が保存されていましたが、平成3年(1991)、火災で焼失しています。



ウィリアム・メレル・ヴォーリズ (一柳 米来留)

1880年、米国生まれ。24歳で滋賀県立商業学校(現在の八幡商業高校)の英語教師として近江八幡に赴任しました。多くの協力者と一緒に産業を興し、建築設計に才覚を発揮しながら、キリスト教の伝道や教育、医療、出版など多彩な事業を展開しました。メンタームで知られる近江兄弟社の創業者でもあります。

■身近にあるヴォーリズ建築

フロインドリーブ(旧 神戸ユニオン教会)・山の上ホテル(旧 佐藤新興生活館)・東華菜館(旧 矢尾政レストラン)・今津ヴォーリズ資料館(旧 百州三銀行今津支店)・大阪大丸百貨店(大阪心斎橋)・神戸旧居留地・京都烏丸)・関西学院大学(上ヶ原キャンパス)・神戸女学院大学(岡田山キャンパス)・大阪福島教会・聖バルナバ病院・下村邸(大丸ビル)・・・
中山道では豊郷町の小学校、鳥居本の本陣跡の建物、醒井の旧郵便局がヴォーリズによる建物です。



『泡子地蔵のおはなし』

街道を歩いていると、「あれっ?どこかで聞いたことがある」というお話があります。中山道の武佐宿と醒井宿にある、泡子のお話。どちらも不思議なお話です。

＜武佐に伝わるお話＞

その昔、村井藤齋という者が茶店を構え、妹が茶を出して旅人を休ませていました。ある日一人の僧がこの茶店で休んでいたところ、妹は一目でこの僧に恋をしました。僧が立ち去った後、妹は僧の飲み残しの茶を飲むとたちまちに懐妊し、男の子を産みます。3年経ったある日、妹が男の子を連れて川で洗い物をしていると、男の子の泣き声が経文を読んでいるように聞こえると近付いてきた僧がいました。見ると3年前に恋をした僧でした。僧にこの話をすると、僧が男の子にふっと息を吹きかけた瞬間、泡となって消えてしまったといわれています。

＜醒井に伝わるお話＞

東国への旅の途中に西行法師が、ここにあった茶店に立ち寄ってお茶を飲み、(法師が茶店を立ち去った後)法師が飲み残したお茶の泡を飲んだ茶店の娘が不思議なことに懐妊し、男の子を出産。帰路にこの話を聞いた西行が「もしわが子なら元の泡に返れ」と念じると、子はたちまち消えて元の泡になりました。これを見た西行法師はここに五輪塔を建て、「泡子墓 一煎一服一期終 即今端的雲脚泡」と記したそうです。「泡子塚」の名で親しまれています。



中山道の「赤い」街並み



独特の紅殻の柱(赤)と焼杉板(黒)の板塀のコントラストが街道沿いを染めています。中山道らしい雰囲気が感じられます。新しく建て替えた家も紅殻の雰囲気は残したい...!という感じですか?!いいですねえ

おもいやりの看板



街道歩きは楽しいけれど、休憩場所や食事場所、トイレなどなかなか見つからないと、困りますね。豊郷のまちに入ると、そこここに、この看板が目をはびきます。地元の方々の思いやり、胸にひびきます。